

参考資料2

様式2 災害状況及び災害応急措置の概要報告書

年 月 日

大阪府石油コンビナート等防災本部長 殿

事業所名

職 氏 名

印

石油コンビナート等災害防止法第26条の規定に基づき、災害の状況及び災害応急措置の概要について次のとおり報告する。

報 告 項 目	内 容
事 業 所 名	
所 在 地	
発 生 場 所	
発 見 日 時	
発生時の運転・作業の状況	
事 故 の 経 緯	
人的被害及び物的被害	
原 因	
今 後 の 対 策	

## 記 入 要 領

1. 事業所名及び所在地 事故に係る特定事業所の名称及び所在地を記載する。
2. 発生場所 事故に係る施設、装置等の名称を記載する。
3. 発生日時 事故が発生した日時（推定を含む。）を記載する。
4. 発見日時 事故を発見した日時を記載する。
5. 発生時の運転・作業状況 事故に係る施設、設備の概要並びに事故発生時の状況を定常運転中、スタートアップ中、シャットダウン中、定期修理中、休止中等の運転状況及び荷揚（積）作業中、サンプリング中、給油中、焼入作業中、溶接・溶断中等の作業状況により分類し記載する。  
（例）「平成〇年〇月に設置した直径〇m、容量〇kL のコーンルーフタンクに〇〇を〇kL 貯蔵・保管中、サンプリングのためゲージハッチを開放した際、火災となった。」
6. 事故の経緯 事故の全体の状況を把握できるように、発災に至る状況、応急措置・防災活動の状況、被災状況等を記載する。  
（例）「巡回パトロール中の〇〇課員 2 名が〇〇移送配管バルブ部分から〇〇が噴出しているのを発見、直ちにコントロールセンターに通報するとともに、上流側のバルブの閉鎖作業を行っていたところ、霧状の〇〇に着火し火災となった。2 名は現場を退避し、構内電話で火災発生を通報した。出動した自衛防災組織は①上流側バルブの閉鎖、②化学消防車モニターノズルから泡放射を行い、火災を鎮圧し、公設消防隊到着時には鎮火状態であった。焼失した〇〇は約〇L で他にバルブ、配管〇m を焼損した。」
7. 人的被害及び物的被害 当該事故による死傷者について当事者（発災事業所の従業員を言い、協力事業所、下請け等の従業員を含む。）防災活動従事者（当事者を除く。）及び第三者別の人数、死傷者原因、職業又は職名、被災場所、被災時の状況並びに物的被害を記載する。
8. 原因 事故の主原因を設計不良、制作不良、施工不良、保全不良等の物的要因、点検不十分、誤操作等の人的要因、地震、落雷等の自然要因により分類して記載するほか、火災、爆発については着火原因を裸火、静電気火花、摩擦熱等に分類して記載する。
9. 今後の対策 事故から得られた教訓をもとに、検討又は計画した対策について記載する。  
（例）「バルブ操作ミスにより漏洩したため、作業マニュアルを徹底するとともに、バルブに対する表示内容・表示方法について見直し、必要に応じ改善する。」  
（例）「大量の泡放射により、側溝等の凹部が確認できず、転倒・負傷する者が出る等防災活動に支障を生じたため、構内を可能な限り平滑にするとともに、必要な箇所にポールを準備することとした。」